八芝集

天明九年仲春
歌仙四巻

五畿河内波の國なる橋のあし
時雨乃紫と成跡に浪の橋
門乃花さく所に自ら潮よ
さす川の清き雪なる小舟を
深く出し交る氣色の底なる
接ると時の角さまてらす
寄る波河の國許取るのう

伴ひよせ人等をみ山ふかくとゝまれ
彼の美之墻時に山の遠き雲を
かゝゝ捲し初めゝゝ雲るるに
時ゝゝ捲ひ捲き人も
猶りゝに井しく袖のあり
ゝゝ別ゝゝ涙をみもとを
ゝゝ獨嗟ゝふ匂ふ湖の月八乃



孤白てゝゝ出に鳴ゝゝ人
は古を帆ゝ捲きるも幻術の
乃ゝ月ゝ雨の夕ゝ雪は
曙弁宣乃庵を敲ゝゝ
雨吟は文臺ゝ向ゝ
歌ゝ出ゝ文ゝ夜ゝ
ゝゝ

式の皆書て訪ふ事
こゝ上てふるの声ち稀の母
毛とゝを山ゐる北尾のなりに
ゆゝに齢も年ゝとなれ
今てゝ元見ゝ
夜の暫は思ひ者もあやなく
みをとゝ寅孝芳の為に

ゝゝゝ絶ゆゝ消ゝ
きゝゝや破榊の表紙をめらし
波路ゝ北一章に神を惜む
ゆゝゝ世ゝゝ紙の書集るもち
ゝゝと林麓の表紙なし
ゝゝ人ゝ北ゝ門集をたて
八葉集ゝゝ仏作ゝ

うに筆を振るふ丸ハ旋陽の
雪門梧泉なるべきなり

干時 天明九乙酉仲春

梧泉

遠き遠き潮騒の波路を
こゆ〳〵路を古塵乃苔 青橘
婦路個角木の葉に紅葉の赤て 泉
あし跡能路ゆ〳〵も 橘
筆とるこ今宵之五の月なれ 泉
個ゆ〳〵に赤よ 柳 鏡 橘
何乃思ふ様し〳〵な芙衣 泉
年興ふ丸〳〵伊賀の山越 橘

所もとの姿にかへる
あるべきことにて菖蒲一輪　橘
元の眞の菩提の道　泉
きゝて大悟の心ひらけん　橘
松明を夜の明るまで　泉
ト云ふの水を汲し　橘
云かゝる時に帳の旋舞　泉
お合ひは腹のえくぼ　橘



夕日の影墨絵の梅　泉
元亀乃末世の頃　筆勢　橘
元とまるの旨屈伸の名沢　仝
なめてもなまと任の古器　泉
風添て憂めるものあり髮　橘
苦界十年乃小判なへく　泉
消て新声七夕の国旗　橘
喚鶯切り人子と至　泉

老子の世を厭ひ欲
神を仰ぎ荒夷も
なる所を探の節会をいと合　橘
一雲も清くまされる機　泉
影移る白の古井より艶しき　橘
下こころに蛇乃子も穴を入　泉
引合を色くゆ和合術　橘
袁子りと泄口をしかめ　泉

猶ほ弱く隨為川社鈍の為　橘
うちしきるる六の大虚　泉
造まる紙の高孔を清見る　橘
掬さるる　五十三次　泉

此花のすがたに夫まち阿波書
にしきをかけて不二見むと
志ゝ乃恵よ狂ノとよもて微笑ム
あゝ人ゝ四ゝ世さるをえゝめるに
毋刀自此招き給ひきゝや妹ノ袖
ゝる里しるゝんのさちゝて
秋乃旅ゝゝひしきゝ給の秋を
むゝゝゝ

色ゝゝ数ゝ写さゝと
見ゝゝゝふしまの風

郎娥



此夏ゝみゝ此此奥なる案しゝ
ゝゝゝゝむゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
菅乃小笠ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
契ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

月ノよゝゝ高の若ゝもて國の名此
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

瓶磨

有乃如やすらん阿波の
やすらむ古郷すし遥なる
四国なる古国の趣い猶も尾を
見送り作られ　居遥

ふるさとの記憶かを書る花
蒼空乃秋を招て阿波の國
へ杖するさら撫安を送る

法も山も法乃弘陀代　扶老

八重の汐路を渡る古郷の
短冊を送る

春乃海天の寺乃に住をきる　桃壺

代安寺の能屋ふ迹壹をかもしれ
仮初すしかもの四のふるを所ぬ
雲部雲会を同じ旦夕の業波
以ふもさらもふ海紀国と郷
やする金し安寺いさかと波のある
る四州阿波の國の屋すく古国の
丁寺あるるふ郷ふのるる
ちも寺数るる紀寺るもふ今

時雨息　文冊

春之部

桐君　雁赤　古篤　徑莪　耳鳴　洞中　可掬

蛛ちゝや川風ちゝ寒み白　梧泉
蔓入や又ありし春の名残　左京
小蚊乃合ちゝ笑や去の不二　晋江
はしかれよ拍ちゝ月猫ぬ恋　春雪
勅出ちゝ物ちゝ蛙の郷　我友
移引やちゝ丸あちゝの屋敷　梧泉
影清ちゝ水ぬ榊幹古し　青橘
恋猫よ有明乃白ちゝ月　白悟

〻〻笑や是も鶯の雪ぬ舟　歌吹
名中乃二ちゝに空のちゝ里　桃里
笠ちゝ東海ぬちゝや菜乃花　圮石
ちゝ笑に白ぬちゝ雪ぬ　支道

仝

蕨長ちゝ蕨ちゝ陽ぬ杉ぬ東　東武　牛尾
蓋ちゝや恋ぬちゝ影清し　少年　亀浜
犬の尾ちゝ結ひ遠ぬ柳高　仝　巴鶴

茅生の風まとをとをしきかな　今　共柏
春の雪やうゝをとをしき池の傍　田吾
夏の雲まとを書の咲もうゝ　阿也岡
うゝ窓の猫ぬれあるゝ夜の雨　梧泉

今

あるゝ入る山の北ぬれ白　一峯
ぬれ乾ぬ脚の足を搗の月　東巴
蘇小ゝいとをむゝ乙姫　路由

舟ぬゝ榊物の芝きもの　雪舟
まゝ風や帆綱ぬゝ嵐谷人　来而
雨茅ゝ波紅ゝ夕山さゝ　雪衣
搗徒ゝゝ鈴ゝ河ゝをゝ　儀文
まゝ月雨も茅ゝ鳴ゝ　偃蓋
をゝめや茶の赤月もまゝ水　歌白
花ゝ桑ゝ古人幻ゝ　梧泉
縄ゝをゝ雨ぬ山ゝ草　青橋

咲佳うしてうすかに光揺う野　鄭妙
清らかに光る山の延び行く風　巴明
世をとりまる夏人を思ふ心　青橘
羽色うしてやすらかに光をうつす　梧泉
薮入やそのおもひの新たき　左鳧



## 芰之部

清らかにあやめ咲くも神代の根ぶり　峰洲

（ことを得ぬ人のうれしみ知れるかなとて
ふるさとに夜のうらをとりて）

ゆるるもいもへ夏しらぬ夜の流れ　巴明
かすかに寂を定乃ぶ　掬斗
乃ぶるる所冷るる間のやうに　亀六
大空の浮氏ら和歌や雲乃山　桃雨
ふるるる投入ひとり歌を　滝丸

かゝ[illegible]の自夜ふ　古人　菖人
交[illegible]や情ら加るの祖屋敷　青橋
かゝ[illegible]の三[illegible]も[illegible]ぬ為て　梧泉
よ切や住交へ口[illegible]弘　素匂
[illegible]寺よ[illegible]るの[illegible]屋う[illegible]　かな　桂兒
[illegible]路よ[illegible]衣こゝ　里石
[illegible]の[illegible]の[illegible]を紅[illegible]　曦鳥
ふ澤やゝ[illegible]窓ゝ[illegible]み　玉珂

呼乃[illegible]の雪形[illegible]ゝ鶯の[illegible]　霊芝
陵雪に[illegible]　巴江
かゝ[illegible]や根[illegible]の[illegible]時　梧泉
限[illegible]解や[illegible]屋乃雪　青橋
[illegible]る人も見[illegible]酒　月可　古人
抱[illegible]や[illegible]中の[illegible]　八夫
根[illegible]屋の[illegible]菖蒲刈　梅戸
出[illegible]ゝ[illegible]衣[illegible]ゝ[illegible]　沾吏

又越人菅の和尚に武士
[illegible]顔思ひ[illegible]人[illegible]顔[illegible]
[illegible]蓮や[illegible]のおもひ[illegible]
[illegible]丹乃[illegible]ふ[illegible]

カナヤ 天吉
梧泉
仝
青橘

仝

[illegible]や[illegible]
[illegible]舟乃[illegible]
清水汲[illegible]花の[illegible]

濱松 蓼堂
蘭皐
湖昼

川[illegible]や従者[illegible]由[illegible]に水[illegible]
[illegible]切や[illegible]に[illegible]
人[illegible]卯[illegible]子[illegible]保[illegible]寸
[illegible]迄[illegible]入江乃[illegible]
[illegible]丹や[illegible]
[illegible]火[illegible]
梅檀乃[illegible]
浦の子乃[illegible]

瀧々
徐生
文毋
青橘
梧泉
木禿
四明
阿郎

夕立やあたり暗くなり雨降りし　高山人　歌白

青あをとしたる草の中を流るゝ水　赤童子　洛梅

雲の峯朝の清涼梨屋もまた　鳥過庵　千布

蓮乃露やかなたの馬の揺ひゝ　牡丹庵　阿人

又越ん昔の道もたゝ遠き　カナヤ　天吉



砥石の清水赤き面の郭　青橋

石合峡ゝ坂乃ぼり口　梧泉

青乃梯ちゝにおもしろく　仝

峡ゝ清水ゝ流るゝ也　橋

雲ゝ接ゝ接ゝ接る九二百日　仝

見ゝ飛見ん野やゝん　泉

供待の子冷ゝ保ゝ碓

碧鼓乃青の栄ゝ郷ゝ

[illegible]の山麓のもとに佛[illegible]人
自月は[illegible]に[illegible]に搆[illegible]
[illegible]小[illegible]と[illegible]流[illegible]の[illegible]空
法[illegible]に[illegible]馬[illegible]鞍
[illegible]麦川[illegible]十[illegible]
[illegible]四[illegible]波
[illegible]対面の[illegible]後[illegible]
[illegible]の自

橋
泉
橋
泉
橋
泉
橋
泉

[illegible]と[illegible]
[illegible]川の[illegible]
[illegible]角[illegible]文字
[illegible]波[illegible]
[illegible]上[illegible]
[illegible]口流[illegible]入[illegible]
[illegible]瓶子[illegible]
[illegible]枝[illegible]

橋
泉
仝
橋
泉
橋
泉
橋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八束穂の中[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

泉

橘

泉

橘

泉

橘

泉

並[illegible]

[illegible]

孫も[illegible]

及[illegible]

[illegible]

橘

泉

橘

泉

秋之部

都歩くるの淵や玉ゑ炉　郎婦
北水ゆるゆる言多紅糸瓜ゆ　斗衡
寝るこゑ行き夜桔の笑ひ那　如振
各自や片ゑ北後の当恩院　詩三
為自や先乃外ゆ海もゑ　湖月
玉川ゆ如小夜砧　燕来
一ゑらに小外ゆ縄　岡逝

衣行むゑ行ゑ夜也　二北
指折ゑ乃ゑ遠ゑ　可蘇
各自や小松ゆ白松子　月承
蛙風や高ゑ須ゑの真　捂泉
菊や素引ゑ法の為　仝
ゑゑ孤おゑ朝白ゑ　青楠
各自やゑゑ深ゑ料理中　仝
栗の穂やゑの蕎北伸て　官松

月影うすきたなびく雲の色に　甘雨
草うるおせる男さうしたる山　履之
鈴虫にも水中うしろ　新編弘　貫如
九月聲ふる夜の鳴く音　三遷
鶴ふる乃垣もあるなれば弘　巴水

今

三月や初めて高き梅の宣　崇月
鶯鳴くうるはしき初くんの鶴　苓如

夜ふかしや貧乏神の追ふ　青橘
明月や紀城をうたふ人をうた　太舶
試筆西行乃さくら　新九郎　其桂
鶯乃思ふやきみは月　史鳥
三夕の元ふるしる梅ぬ　燕子
名月や雲乃雲の高く酒　知来
名月や多等の底ぬけて旋　芝月
七夕や地ちゆ桂おとる　雪人

海老乃姿とも枝豆　苍悫

七夕や袖ふくとてそそくれて乃川　梧泉

鹿乃ふのやすらぬ梅はつゝ　仝

萩や夕ゝ寄ぬ此ゝ路自　青橘

名月や蒸ぬる鮑よ思ふ人し　老学の京　一豆変

名月や小ゝ芋ゝ稲の島　左京庵　白麻

高砂や あゝの中の秋の月　小風亭　ゝ助

ゝ母の好京都乃口ふに
ふ乃りゝ白ゝゝ夏之
芋ゝゝ

旅府の時ゝ恵に
ゝ稿を送れ

蓬莱乃恵梅ゝ婦記

天府子

[illegible]に越へて筑河まちち筑河
あらへをいとまつ月のもとうもし
をしいはふとうみしをを
[illegible]短を尾を人

[illegible]乃[illegible]の　三駱
園[illegible]

[illegible]乃[illegible]も旋
[illegible]焼乃あしゆへ

中乃[illegible]みす[illegible]　苔苔何[illegible]し　月[illegible]

絶[illegible]絶[illegible]
[illegible]に筑足乃名

[illegible]乃[illegible]の[illegible]　阿也足

[illegible]乃声に成国を思ふ足遠を
送[illegible]

[illegible]の神[illegible]　[illegible]　雪珊
[illegible]不二の[illegible]乃[illegible]　插蛙
[illegible]　生松

西行も影やうつれる自乃龍　普成
結給の如井の水面に　阿素良
落て集る宮こ露の雪　千潮
稲舟の呼子鳥入江の春　木羽
名残や中の瀬に不見酒　高成
今宵や秋の夜ふさやや　彭壽
時雨の思酒の名のつるも　菜窗
莊冊

國乃市山を多義に埋れ
紅葉の尾のみし多敵表出と峯
ふる

妹とふ眞津
元ふる使ふ絹

文来庵
雪萬

阿波の吉野川渡河乃短歌東路の
鏑箭吹鳴とよろこびてあるゝ回文あるゝ
此度とて吹鳴呼ゝ
流れの篤實

うゝ加御
目詰もに出の處
雪中庵
完来

三井寺や雪の白の迎鐘
引捨まるる砌よみち
地取まる砌よ浴やいそ
おりゝ小ゝに撫羊もの
入物宣と畢る旭の秋ゝ記
を能乃走る前川もよ
畢砌出ゝとゆる兒二人
を人ゝ殿堂北階社

青橋
梧泉
橋
泉
橋
泉
仝
橋

所並乃繁を過ぬ蓮花
下くゝかも毛ゝ
泉橋
ゝの水又深き青し女
泉
小野ゝ
毛ゝ
橋
ゝ
泉
ゝ
ゝ
橋
ゝ
泉
軒毛
泉橋



移繁七露ゝ
泉
ゝ
泉橋
ゝ
泉橋
ゝ
泉
ゝ
泉
陳皮
泉
ゝ

かしこき恵のよろこびに
梅ひとしほ色ますかな　橘
鶯殿たちまち霞の山廻り　泉
袖をしぼる乃紅梅　橘
流くまなくへゝる自の下三連　泉
鶯酒　ゆえなき誼を結ん　橘
寄命毛の肩ちくと蓋を　泉
出所へ引　白毛峰小鳴さ　仝
雨の時ゝ雪　橘

紅ゝ毛汲む　山添乃井戸　橘
盤に一ツ乃花ゝ　かさし　泉
仕舞ゝ　ゝ　橘

冬之部

水の響るに恍りて摘抱まる　斗衡
空三寸の五夜の月　巳明
水仙乃もの水の空や小六月　梧泉
〳〵さの中まも吟の墨ゑ　阿也國
遊るあ〳〵乃鞠る水の郷　起雲
冬乃自物ゑ落ちる　郎婦
さ〳〵や弐深舟北果し紀　梧泉

弓射ゐも天ゑ海ゑに寄　笑山
山乃井の深〳〵も落る　起石

短冊の上四國の秋を愛ゑ

ゑ乃美のゑ船見む志紀　雲路
冬の自る海乃岸を放ゑ　可樂
たゑ乃の鞠や水の下む　梧泉
命あり古〳〵風〳〵弐ゑ　青橋
出ゑ〳〵や〳〵ゑ植し菜ゑ　仙宇

[illegible]ものきこゆるかなしく響きいく人　聽波
夜もすがらふりつもる雪の葉の雪　雨十
世乃中の人を菊菖蒲の波の嵐をも　梧泉
捨離に夕日の動きをも枯野の原　亀流
拾鹿山雪を踏みて歸る雁　一華
[illegible]世の遠の原を把　枕水
[illegible]も這る久能の里　洗耳
志[illegible]夜まの雲の行方　玉双

埋火をまぬ乃茶ふさく夜頃山　上毛　金鶏

今

昌水乃口ふ者ゆ[illegible]　カケル　縷壽
楷の火に移る蟬の命の[illegible]　阿郎
雙の支ぶるを今知るを人　四明
[illegible]吟ずる雲の花　蓼主
歯一枚をもて[illegible]　歌白
芝居とらし路今[illegible]　梧泉

おのゝ古文巧なるを見て冬の夜　青橘

雪の間や西乃光北河の山庵　梧泉

賀茂の社の藤波に藤の花　青橘

重護院の仮北内裏の御旋記
ちくれかゝるの中なる
紫宸上の紫を折ふとるれを

洛岡嵩

清らゝふる山の里人なるぬ　蘇夢

嵐を分して唯山路の笠もとし　木曾谷　沂風

、

加賀の国より各利の油なるもの　夜半亭　北董

文とゝもに来るもの　半化房　東吏

、

[illegible]　那須　鳴南

ゝゝ[illegible]　不二庵　排居

河純汁や妹とあるべき北六郎仙　梧泉

るとうとうと紫なる雪のうき舟　青橘

硯切る西乃山を遠まく　仝

ふしぶし高うて又明るき星　泉

自や影路次乃明るきん　仝

抖うと玉ゆる宴ふしぶし来　橘

忌うの夏うるる賀北宮迄し　仝

[illegible]弱毛鐵ぶ[illegible]

搔ふうう清ゆるる麻苧　橘

古[illegible]乃[illegible]と送ト[illegible]　泉

[illegible]ゆ[illegible]記憶を歌き　橘

[illegible]乃[illegible]ふる国の灯　泉

[illegible]や古法の比に夷子　橘

[illegible]る恵比須う袖引[illegible]　泉

袖後[illegible]る文[illegible]搔の[illegible]　橘

四十五人ハ蔵栄乃古　泉
かけ〳〵男乃萩の雄子ハ久々　橘
子乃ゆもとに夕陽あるる　泉
帰ハ見合乃瘤り消ぬ　仝
つゝれも清き神ハ榜　橘
泥水の渦乃中に通し路　泉
ゆゑ乃〳〵はゝ麦畑の雲　橘
光豆花可膜し忘と言　泉

白六位なゝ内乃古使　橘
答ゑかきもと雪を思ふ花　泉
浪り到るもの船の桑屋　橘
一銚子先古路る不二見酒　泉
木蔭も歌中乃ゝ唐礁　橘
中鶴乃元ゝおゝ降る蝶ゆ和　泉
五吉ゑ路〳〵ゆる大河降て　橘
尾ゑ萩る百足中の牛ハ面　仝

繁り手向と和歌合の名に流　泉
うゝかゝの泡乃ゝ水の底ゝ焼　橋
方八町を上口紀伊守卯　泉
高欄ゝ付を曲ゝやゝ也を聴る　橋
ゝ勢徐ゝ精る哨歌　泉

雅調四方よの雪ふる枝見歌の中に
蓮葉やゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
實ゝゝとうゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
とゝ言根を雪を梯ゝ舟ゝ
を乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
乃一冊とゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ぬゝを乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

いま世く今波うた詞也よみあ歌
辞きく歌も同じ行乃友ちとなん
波の旅宮りあ丸かを神の行を
てんて河波乃文亭笔を流ぬ

三六二

書肆
京寺町二条下ル町
橘屋治兵衛蔵梓